

第 3 期中期計画期間の追跡評価

委員会からの主要意見

- 国内外の環境研究の中核的研究機関および政策貢献機関として十分に機能を果たしつつある。多彩なアプローチによる研究が展開されたと評価する。
- 当初の中期計画になかった「災害と環境に関する研究」を取り込んだことは、人的・予算的資源が限られることを考慮すると、それなりの影響があったと想像されるが、結果的には国環研全体の研究のパフォーマンス向上に繋がったと思われる。
- 地球温暖化研究については、IPCC やパリ協定へ多くの学術的知見を提供するなど国際的な貢献が顕著であった。
- 国環研は、長期的な視点から環境研究を総合的に推進できる日本において唯一の研究機関であり、若手研究者の育成・キャリア支援や男女共同参画などの研究環境や研究体制のダイバーシティ推進にも引き続き取り組み、研究者とそれを支える技術系・事務系職員が、生き活きと活躍する研究所として発展するよう期待する。
- 国環研がリードする国際制度や国際機関の長となる人材の育成に期待する。
- 国環研の福島支部が開設されたことは、今後の日本社会のみならず世界にとっても大きな意味のあることである。ぜひここから新しい研究を伸ばして欲しい。

主要意見に対する国環研の考え方

- ①第 3 期中期計画の課題対応型の研究プログラムおよび災害と環境に関する研究について、研究成果のその後の社会への貢献度合いや波及効果に関して評価をいただきありがとうございます。
- ②災害と環境に関する研究につきましては、緊急性や重要性をご理解いただき、また、中期計画を変更して取り組んだことを評価いただき感謝申し上げます。第 4 期中長期計画では災害環境研究プログラムとして発展的・総合的に研究を推進しているところであり、今後、更なる研究の進展を図りたいと考えています。
- ③引き続き、国内外の機関との連携を深めながら科学的な研究と社会への貢献を両立できるよう努力し、国内の環境行政や国際条約へ科学的知見を提供し続けていきたいと考えています。また、より魅力的な研究所としての発展を目指し、研究所の関係部署と相談・検討しながら人材育成や体制構築に取り組んでまいります。